

令和4年度 学校評価報告書

丹波篠山市立今田小学校
校長 野々口 竜己

1 学校教育目標等

今田が大好き！やさしく、たくましく生きる今田っ子を育む
～夢のある楽しい今田小学校をみんなで作ろう～

2 今年度の重点目標

「学 ぶ」 自ら学び、つながる学びをつくる
「整 える」 学びに向かう姿勢・環境を整える
「つながる」 つながりを大切にする豊かな心を育む

3 学校自己評価結果

(達成状況…A：よく達成できた B：達成できた C：やや課題が残る D：改善を要する)

分野	評価項目	達成状況	取組状況・改善方策
◆学ぶ ・学習指導	特別支援教育の充実	A	ユニバーサルデザインの教室・授業づくりは、意識してよくできた。今後もユニバーサルデザインを意識して取り入れる。 アセスメントに基づいた個別支援を行うための教育支援計画の作成・活用については、合理的配慮の観点を踏まえ、一人一人の障害の状況等に応じた指導内容や方法の工夫を記入し、活用することができた。
	見通しが持てる授業づくりと家庭学習への支援	B	ゴールを明確にした授業づくりは、意識し、取り組むことができた。 つながりを通じた学びは、学年団・全体研修をもとに研究授業を行った。今田小としての授業スタイルを作ることができた。さらに、スピーチタイム等を通じ、話すことへの抵抗感をなくしていく。 電話、連絡帳、家庭訪問や懇談で各家庭への対応はよくできたが、家庭学習や読書活動の習慣化は、さらに家庭と連携する必要がある。そこで、家庭学習の手引による啓発を年度当初学級懇談会で行う。読書の習慣化は、地域人材によるお話会や家庭と連携した読書通帳等の取組を行う。
	情報教育の推進	B	情報機器は、クロームブックを使った個に応じた指導を進めることができた。さらに、個別最適化を考えた効果的な指導を行う。 情報機器の活用を家庭と連携して行うことがさらに必要である。学級懇談会や学校だより等を活用した啓発を行う。
◆整える ・生活習慣 ・環境づくり	学びに向かう姿勢の確立	A	今田っ子のきまりとして学習規律や挨拶・時間・清掃に力を入れ、学習に集中できる環境づくりを進めた。まずは教職員から元気よく挨拶すること、教職員自身が時間を守ることを、清掃に取り組むことが積極的な働きかけになると考え実行した。今後も児童会の挨拶運動等を継続する。
	安全安心で学びに集中できる環境づくり	A	安全点検を複数の視点で行うとともに、必要に応じ速やかに対応することができた。 安全教育を通じ、自己安全管理という言葉と意識が、児童に定着している。今後も児童の安全意識を高める指導を継続する。 毎日の検温など日々の健康観察がスタンダードとなった。状況の推移を踏まえつつ、自らの体調管理を意識できるようにする。
	姿勢を整える力の育み	A	運動の習慣化と体力・運動能力の向上について、体育の時間の指導や休み時間の関わり、健康安全・体育的行事を通じ、習慣化を意識した取組を継続することができた。

◆つながる ・地域とともに にある学校 づくり ・生徒指導	ふるさと 教育の推 進	A	ふるさと教育は、3年計画「発見、発想、発信」の2年目として、今の自分にできることを「発想」することを意識して指導してきた。学習発表会で、児童は工夫して自分たちの思い・考えを表現できた。
	道徳教育 ・人権教 育の充実	A	教育活動全体を通じて児童の道徳性・人権意識を高揚させることができた。今後も児童の頑張りや成長を認める取り組みとともに、自分も周囲も大切に「おはよう」「はい」「ありがとう」を増やしていく。
	生徒指導 における 協同体制 の確立	A	職員会議や職員打合せ等で、児童の情報共有を頻繁に行い、未然防止、早期発見、早期対応ができた。定期・臨時の生徒指導委員会を開き、速やかな対応ができた。今後も未然防止を第一と考え、学級での諸活動や縦割り班、委員会、クラブなどを活用し、児童の温かい人間関係づくりを積極的に支援する。

4 学校関係者評価結果

(1) 重点目標についての評価

・学校教育目標「今田が大好き！やさしく、たくましく生きる今田っ子を育む」や重点目標「学ぶ」「整える」「つながる」は、簡潔でわかりやすく良い。

(2) 総合的な評価（意見・感想）

・コロナ禍で特に地域住民が学校に赴くことが少なくなっていたが、地域住民を講師として活用したり、地域に出かけたりして地域と関わることができたのは良かった。
 ・徒歩通学対象地域ではあるものの、遠距離を徒歩で通学することがむずかしい低学年児童について、バスの乗車可能人数の範囲内で乗車させることができたようにしたのは、よかった。手順を踏んで保護者の理解を得、不公平感が出ないようにしたことがよかった。
 ・見守り隊との顔合わせの会、感謝の会ができてよかった。地域の方に支えていただいていることを児童に感じさせる場になった。見守り隊が高齢化し、減少傾向にあることから、まちづくり協議会や自治会長会と連携して確保に向けて動くことが必要である。

(3) 学校自己評価の結果及び改善方策についての評価

分野	学校自己評価の結果及び改善方策についての評価
◆学ぶ ・学習指導	<ul style="list-style-type: none"> 読み聞かせが2学期から実施できてよかった。子供は地域の人が読んでくれると面白いと言う。読書習慣を付けるために、カードにチェックしていくなどして、チェックが増えることが楽しみになるような方法も良いと思う。 情報機器をゲームだけでなく、学習に使うようになってきたことで、逆に家庭でのルール作りが難しくなってきた面もある。情報機器は使い方によって良くも悪くもなる。大人でも難しい。みんなで考えていくことが必要だ。
◆整える ・環境づくり	<ul style="list-style-type: none"> 今田の子は良く挨拶をしている。挨拶は、社会生活のスタートラインである。しっかり挨拶ができる子を育てたい。挨拶は家庭・地域でも心がけ、大人の側からも積極的に声かけをしていきたい。 生活習慣は非常に安定している。
◆つながる ・地域とともに にある学校 づくり ・生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> 本年度のふるさと講演会（鼓篠組の和太鼓）はとても良かった。今後も児童の心に響くようなふるさと講演会を学校運営協議会で実施してほしい。 学習発表会での発表は、今田についての学びを深めたものでよかった。子供もよく考えて取り組んでいることがわかった。 自己肯定感が高まっている。子供同士の人間関係への肯定的評価は、児童・保護者ともに非常に高い。子供同士の人間関係上のトラブルは必ず起こるし、トラブルを通じて成長していく。トラブルはあっても解決できる関係づくりを進めてほしい。家に遊びに来た子が、別々の遊びをしていた。大人が一緒に入って遊んでほしいと求めてくる。みんなで遊ぶ遊び方を知らないように思う。集団で過ごす学校だからこそ、人間関係をつくっていく力を育ててほしい。